



総務 常任委員会

大学の知的財産を活かせ

群馬県立女子大学との連携協力の現在

委員長 石川 眞男
 副委員長 笠原 則孝
 委員 齊藤 嘉和
 筑井 あけみ
 島田 栄一

今回は、このメンバーで、群馬県立女子大学とどのような連携協力が行われているか調査しました。



町との間で結ばれた包括協定

平成23年1月5日、玉村町と群馬県立女子大学との間で包括協定が結ばれました。両者がまちづくり全般にわたり、相互に交流する関係を築き、地域社会の発展・人材の育成及び学術の振興等に寄与することを目的としています。

この締結を機に、経営企画課が窓口になり、連携の流れをスムーズにしたことで、現在は27の連携事業を行っています。

大学と町の連携プロジェクト

最近、大学のある地域では、教員や学生が地域おこし活動に取り組み「域学連携」が注目されています。例えば、「たまたん」をPRするための「当地ナンバープレートデザインは学生の提案により決定しました。国際コミュニケーション学部のアナウンサーの授業では、「名もない町を名もある町へ」をテーマとし、玉村町をいかに売り出すか、その手法が授業になっています。

また、方言学を研究する国文学の新井准教授は、学生と一緒に玉村町の方言を調査し、方言で「お切り込みのレシピ」を作成することも考えているとのこと。



学生数約
1000人
の群馬県立
女子大学

ことしの5月には、町の職員が群馬県立女子大学で講義を行いました。テーマは、「玉村町の歴史と概要」、「玉村町の観光と広報戦略」などです。



まとめ

事業の説明を受け、連携事業が良好に進められていることを実感しました。

大学の知的財産を活用し、学生の若い力を玉村町の活性化のため役立てる「域学連携」の発想は大切です。

今後も連携が一層豊かなものになることを期待します。

こんな議案を審議しました

そこが聞きたい一般質問

委員会のつぎ

その他